## 本市場大渕線、五味島岩本線などの道路開通に向けた意気込みを伺う

**新政富士**

**議員**　新東名高速道路へのアクセス道路である本市場大渕線や新々富士川橋に関連する五味島岩本線等の早期完成に取り組むとともに、国道139号西富士道路の渋滞緩和を図るため、新たなインターチェンジの設置可能性について、国や県、富士宮市と協議するとのことだが、市長の開通に向けた意気込みを伺う。

**市長**　本市場大渕線や五味島岩本線などの主要な路線の整備は、市内交通の円滑化を図るとともに、慢性的な渋滞の緩和、防災上の強化、産業経済の発展に不可欠であると認識しており、一刻も早い開通に向け取り組んでいく。現在、県と連携し事業を進めているが、今後も道路整備のさらなる進捗を図るため、国、県等の関係機関に対し、財源の確保や道路整備の促進を強く要望していく。

西富士道路の新インターチェンジ設置については、慢性的に発生している渋滞の緩和を図るとともに、周辺地域における交通利便性の向上を目指すものである。また、ヒト・モノ・情報がより活発に交流することで新たな価値が創造され、様々な波及効果をもたらし、都市のさらなる発展に弾みをつける好機になることから、未来を見据え、実現に向けて進めなければならない取組であると認識している。

新年度は、インターチェンジを設置する最適地の検討や費用便益分析に加え、通勤や物流、観光などの多様な視点に基づく効果を調査するとともに、国や県、富士宮市と協議を行う場を設置し、事業化の可能性を探っていく。

## サイクルスポーツの推進による観光振興と富士市自転車活用計画の内容を伺う

**民主連合**

**議員**　富士市スポーツ推進計画の策定とともに、富士市自転車活用推進計画の策定に着手するほか、プロサイクリングチーム、レバンテフジ静岡に活動拠点の整備などの支援を行うとのことだが、サイクルスポーツを市の観光産業の柱にする考えはあるか。また、自転車活用推進計画の内容について伺う。

**市長**　本年度見直しを行った富士市観光基本計画では、スポーツ交流の推進を施策の一つに掲げ、サイクルツーリズムを県や近隣市町、民間事業者などと連携して推進していくことを新たに盛り込んでいる。また、サイクルツーリズムの推進において、レバンテフジ静岡との連携により、本市独自の企画が可能となるほか、Jプロツアーの市内開催や太平洋岸自転車道及び富士山一周ルートの活用が、市の観光振興に大きく寄与するものと期待している。

また、自転車活用推進計画は、自転車が環境に優しく、健康増進や交通混雑の緩和などに効果があることから、その活用を総合的・計画的に推進するとした自転車活用推進法に基づき策定するものである。国の計画を受け、県の計画では、「サイクリストの憧れを呼ぶ聖地〝ふじのくに〟の実現」を目指す姿とし、競技振興、サイクルツーリズム、裾野拡大・安全、走行空間整備を目標に定めているが、本市の計画では、これにレバンテフジ静岡との連携も盛り込み、市民の自転車活用の推進や本市の活性化につなげたいと考える。策定に当たっては、（仮称）富士市自転車活用推進計画検討協議会を設置し、広く意見を伺うとともに、国・県の法令や計画、市の総合計画などとの整合を図りながら進める。

## 五味島岩本線橋梁工事の入札不調による新々富士川橋工事全体への影響は

**民主連合**

**議員**　新々富士川橋に関連する五味島岩本線整備事業では、今年度完成予定であった橋梁工事が、入札不調により新年度以降の工事になるとのことだが、新々富士川橋の全体工事への影響を伺う。

**市長**　新々富士川橋は、2020年代前半の開通を目標に、現在、県が整備を進めている。本市では新橋開通に合わせ、安全で円滑な交通を確保するため、五味島岩本線ほか5路線の関連道路の整備事業を4年度までに完了する予定である。

本年度に実施を予定していた大堀添橋の架け替え工事は、入札不調により契約事務に遅延が生じ、適正な工期が確保できないため、工事を先送りせざるを得なくなったため、五味島岩本線の橋梁工事全体の工程を調整し、本年度予定していた大堀添橋は、3年度に、3年度に予定していた新堀橋は4年度に変更することで、橋梁工事は全て完了する。

橋梁工事は1年遅れとなるが、五味島岩本線ほか5路線の関連道路整備事業の完了は、4年度と当初の計画と変わりなく、新橋全体工事への影響はないと考える。

整備中の五味島岩本線（富士市農協岩松支店前）



## SDGsと生涯青春都市の共通点やSDGs未来都市の取組について伺う

**公明党議員団**

**議員**　SDGsの理念と、生涯青春都市の理念が重なり合うとのことだが、どのような部分か。また、SDGs未来都市への取組について伺う。

**市長**　生涯青春都市の理念「市民の皆様一人ひとりが尊重されるまち」や「誰もが生き生きと暮らし活躍できるまち」は、SDGsの理念「『誰1人として取り残さない』社会」や「誰もが持続可能な社会に向け参画し貢献できる社会」と重なると感じており、SDGsの達成に向け変革に取り組む姿勢は、生涯青春都市の実現を目指しチャレンジする姿勢と重なり合うと考える。

また、SDGs未来都市とは、SDGsの達成に向け優れた取組を提案した都市を国が選定するもので、毎年、最大で30都市がSDGs未来都市に選定され、これまでに県内では、静岡市と浜松市が選定されている。本市では、富士山の環境保全活動やユニバーサル就労事業、CNF関連事業など環境、社会、経済の3側面でSDGs達成に資する先導的な取組を推進している。また、民間分野でも様々な取組が行われていることから、市民、企業、金融機関、教育機関などの関係者と連携し、オール富士市で取組を加速できるようSDGs未来都市採択に向け取り組んでいく。

SDGs 17の目標

## 富士ヒノキを使ったウッドスタート事業の実施体制とさらなる活用の可能性について伺う

**凛の会**

**議員**　森林環境譲与税を活用し、富士ヒノキ製玩具を新生児の誕生祝いとして贈呈するウッドスタート事業を林政課主導で始めるとのことだが、全事業をブックスタート事業同様に展開していくのであれば、地域保健課との連携が必要と思うがいかがか。また、富士ヒノキを利用した幼児用の椅子を贈ることについて伺う。

**市長**　ウッドスタート事業は、新生児が木のよさを体感する効果が期待できる木育の有効性と併せ、木の魅力を身近に感じながら成長することにより将来的に様々な場面で木製品を選択するなど、木材の利用促進につながると考える。

2年度の本事業の対象となる子供の数は、月に約140人と見込んでおり、贈呈方法については、ブックスタート事業と同様に、6か月児すくすく赤ちゃん講座を実施する地域保健課と林政課が連携していく。

また、乳児の頃から、木に触れ、木のぬくもりのよさを実感することが木育の目的の一つであるが、成長過程にある幼児に、富士ヒノキ製の椅子を贈呈することで、継続的に木のよさに触れることができ、木に親しむ機会につながるほか、保護者にも木造住宅の建築を選択する機会につながるなど、富士ヒノキの利活用にもつながると考える。しかし、製作コストや贈呈方法などの課題があるため、今後、贈呈の効果なども含め研究していく。

## 交通と福祉の連携による移動支援サービス「地域おでかけバス」の実証運行とは

**ふじ21**

**議員**　公共交通の空白地域を対象に、高齢者の移動を念頭に置いた地域おでかけバスを実証運行するとのことだが、対象となる地域、運行体制等はどのような内容か。また、対象地域の住民が運行にどのように関わっていくのか伺う。

**市長**　本市では、鉄道駅やバス停から半径300メートル以内とデマンドタクシーの運行エリアを公共交通カバー地域、それ以外を公共交通空白地域と定めており、空白地域はコミュニティバスやデマンドタクシーの導入で徐々に解消されている。一方、全てを公共交通でカバーすることは現実的ではないことから、公共交通カバー地域に囲まれたスポット的な空白地域で、福祉の視点を加えた実証運行を実施していく。公会堂などを待合所に設定し、近隣の商業施設まで小型バスの運行を想定しているが、詳細は地域住民と話し合いながら検討し、主に高齢者の買い物需要を対象とした外出支援サービスを提供していく。

また、本事業のような交通と福祉が連携した仕組みについて、まずは、公助の観点から市が主体となって取り組み、将来的には地域の助け合いなど互助や共助の輸送サービスも視野に入れ、行政と地域が一体となって戦略的に取り組むことが重要と認識している。そのために市が自主運行を実施し、地域の高齢者のニーズを検証、見える化した上で、地域住民と、課題や必要性を共有し、共助の意識を高めていきたい。これをきっかけに、地域課題である高齢者の外出支援を、まちづくり協議会などで検討していただくよう働きかけを行っていく。